

平成28年 第3回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会

日時：平成29年3月2日

開会 午前10時30分

○事務局　それでは定刻になりましたので、第3回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会を開催させていただきます。

本日の議題、本庁舎周辺地区の課題等につきましては、前回の第2回に引き続き、本日の第3回でも議論いただきたいと思います。

次回、第4回ではこれまでにいただきました御意見を事務局で取りまとめた懇話会のまとめを御確認いただきたいと思います。

なお、当懇話会の委員の皆様は、平成29年3月31日までお願いしておりますが、第4回懇話会を5月頃に開催したいと考えておりますので、引き続き委員への御就任をお願いいたします。

後日、改めて御依頼をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、現在、市議会で御審議していただいております来年度の予算の中に、本庁舎のあり方基本構想の作成の予算を計上してございます。

この懇話会でいただいた意見等を踏まえた上で、本庁舎のあり方基本構想を策定していく予算でございます。

この基本構想では、民間の資金とノウハウを活用して市の財政負担を軽減しながら、まちのにぎわいづくりや新たな人の流れを創出するために必要となる、新庁舎が備えるべき機能等について、基本的な理念や考え方をまとめていく予定でございます。

それでは、以降の議事進行は岡田会長にお願いいたします。

○岡田会長　この懇話会も3回目ですが、これまでに委員の皆様からさまざまな観点から貴重な御意見を頂戴いたしました。

ある程度の方向性は見えて来ましたので、今回、総まとめというものを本日举行させていただきます、そして第4回懇話会で「懇話会まとめ」を確認していきたいと思っております。

ります。

それでは、事務局のほうからこの本庁舎周辺地区の課題等についてご説明をお願いします。

○事務局 お手元の資料1をご覧ください。

第2回懇話会でお示しさせていただいた資料に、委員の皆様からこれまでに頂いた御意見を反映しております。赤文字で表示している部分が、加筆した部分です。本庁舎周辺地区の課題等のところでは、課題、求められていることについて漏れはないか、補う項目等はないか、それから解決に向けた方向性につきましては、別の視点、方向性はないか、そして求められている機能については、さらに御意見をいただきたいと思っております。

また、資料の右端に行政機能とございますが、こちらにつきましては、第1回懇話会で市長の挨拶にございましたように、ICTなどの活用により行政機能の再配置も考えられると思いますので、あわせてこちらにつきましても御意見をいただければと思っております。

それから続きまして、お手元の資料3をごらんください。

先日2月23日の神戸市議会本会議での市長の2号館、3号館に関する発言要旨をまとめてございます。

3項目の必要な機能の検討というところをご覧ください。アンダーラインを入れた部分です。市民やまちを訪れる人にとって魅力的な拠点として、神戸の顔としてふさわしい、シンボリックな施設として、構想を具体化したい。

それから4項目の規模のところをご覧ください。

多くの市民の方が来られるような施設の内容にしなければならない。現在の2号館、3号館と同じ規模のスケールでは不十分であり、少なくとも本庁舎1号館と同程度の床面積が必要になると考えている。

それから5項目の今後のところをご覧ください。本庁舎、東遊園地を含めたエリア

の全体像を具体的に明確化していく。

エリアの全体像について、都市計画マスタープランの中で位置づけ、床面積を確保していく方法を検討していく。

バスターミナル予定地と本庁舎のあるこのエリア全体をどうするのかという視点で、関連づけながら検討していきたい旨の発言がございました。

この市長の発言も踏まえて、御意見をいただければと思います。

○岡田会長 事務局からの説明の中で、第2回懇話会で議論しました本庁舎周辺の課題等につきまして、

他にまだ補う項目があるかどうか。

解決に向けた方向性として、新たなお考えがあるのならば、その方向性を。

この建物の中に求められている機能につきましては、さらにほかにもあるのではないか。

それから、行政機能の再配置。

さらに、市長が市議会の席上で具体的なこととお話になりましたので、このことも含めて、御意見頂戴できればと思っております。

○山下委員 最初にちょっと補足をさせていただきます。

市会本会議において、質問の中でポイントになったのは、建てかえのスピード感、床面積、規模です。市長の思いは、単なる市庁舎としての役割だけではなく、いろいろな人が集まってくる機能も盛り込みたいという希望があるが、床面積については都市計画上の手续が必要となる。また、質疑者からは、2、3号館はまちづくり会議に諮らずに市長のほうで結論づけて進めることができるのではないかという発言がありましたが、その点に関しては市長は否定しており、都市計画の手续も含めて実務的な検討をお願いしたい旨の発言があったことを補足させていただきます。

○長濱委員 都市計画決定の手续は重要だと思うが、この本庁舎のあり方に関する懇話会では、どういう状況が一番神戸の三ノ宮エリアにとって良いのかが重要だと思

う。それから都市計画的に手続をどうしていくかという議論が次にあると思っています。

現行の都市計画の枠内だけで考えるよりは、海外の事例を見ていても、それを変えて行こうという動きのほうが大きいと思います。そういう意味で、どれがベストなのかみたいなビジョンが重要かなと思っています。

課題や求められていることは、概ね議論を重ねてきましたので、これでいいと思いますが、もう少し俯瞰して見てみると、駅前地区は駅まち空間も含めてこれからも商業集積がかなり期待でき、南にはみなとのもり公園を含めたいわゆるパブリックがあり、この2号館と東遊園地でセミパブリックみたいな状況をどうつくれるか。文化拠点の発信というのは、それを意味していると思います。

商業施設をここにつくるのではなくて、公益性のあるような市民目線の、セミパブリックみたいなものを作っていく、駅前の民間だけが純粹にやっていくようなエリアと、南側のパブリックとの中間地点にあるので、セミパブリック的なにぎわいのよさみたいなものがあると繋がっていくと思います。

そのあたりのスキームというか、そのあたりがペーパーの中に少しフレームとして、もう少し書けたら、ビジュアライズできたらいいかなと思いました。

○福岡委員 懇話会では言葉でいろんなことを議論してきましたが、先ほどビジュアライズっておっしゃったのがいいかなと思っています。駅前空間から東遊園地の少し先くらいまでのエリア一帯で、グランドレベルというか人が歩くレベルでの大きいエリアでどういうビジョンを作っていかだと思っています。

そこでパブリック、セミパブリックという話がありましたけれども、例えば低層部だけを分析して見ていくと、本当に人が通り抜けられる場所があるのかとか、居留地からウォーターフロントまで回遊性を高めるという話は、ずっと神戸市の中でされてはいるが、市役所周辺のこの心臓部みたいなところで、特化した社会実験や、新しい何かビジョンというものを落とし込んだほうが、神戸市としてもいろんな施策が見え

やすいと思います。ビジョンを落とし込んだようなもの、ポンチ絵でもダイヤグラムでもいいので、それを元にもう少し我々のアウトプットが視覚化されることによって、より多くの方がそれを議論する、共有するためのたたき台になると思います。

○長濱委員　動線の話は重要だと思うので、懇話会でも提言したほうがいいと思っている。人の動きをどう作っていくか、導線をどう作っていけるかというのがすごく重要である。1号館、2号館は街からいうとバリアになっている。人の導線の計画とか、新交通のネットワークは、コンテンツにも、あり方にも効いてくると思うので、居留地へどう送り込むか、フラワーロードと居留地の間のバリアになっていることは確かなので、それをどう改善していくかというのが大きな話かなと思います。

○福岡委員　パークレット事業、東遊園地の社会実験など、さまざまな実験的なことが動いている。それをどういうふうにまち全体の動きに繋げていくかというときに、人の動きはどうか、人がより使いやすく、快適性を求めて、まちの中で滞留してるのがいいのか、動き回ってるのがいいのか、歩きやすいまちというのは、いろんな歩き方もあると思うので、その辺をもう少し、エリアの魅力という形で検証するのも一つの手かなと思います。市庁舎建てかえだけではなくて、ほかの都心部の話でも必ずつながる成果になると思うので、それを視覚化するのはすごく大事なことだと思います。

○中右委員　1号館レベルの床面積が必要と市長の答弁要旨に書かれているが、駅から歩いて来た時に、もう1本これがあったらちょっと圧迫感があると思います。そういう圧迫感があるところを歩きたくなるかというのが個人的に疑問だ。

回遊性の高さは重要ですが、建物がきれいになってしまって、全てが街の表側になってしまうと、表側ばかりの街は魅力がなくて、歩きにくいかなと思います。

○岡田会長　先ほど中右委員が言われた表面だけのまちだとなかなか歩きにくいとは、何かそういうふうに思われることがおありなんですか。

市長が目指されているのは高いビルをもう1棟建ててツインタワーみたいな形かなと説明を聞きながらイメージしました。そうするとそれは圧迫感があり、表面だけ綺麗

麗になったらなかなか入ってこれないとお話があったんですけども、そこに何かあれば、集まってくるのかなというようなことを考えてみたんですけど。

○中右委員　路地裏があるような街はわくわくして歩きたくなる。実感として、ビルとビルのすき間のような、意外なところに人がたまって本を読んでいたりする。高層ビルだけが建っているのではなく、ちょっと自分だけの隠れ家みたいな、通り道みたいな、そういうところを気に入って人が集まってくるのかなと思います。

○南部委員　事務局に質問が1件あるのですが。

メルボルンは世界で一番住みやすいまちとよく言われます。

どんなに住みやすいのか1回見に行きました。1番すごいなと思ったのが、交通網が大変発達をしており、市内の中心部分は、ほぼフリーでL R Tが乗降自由という状況です。

市庁舎の回遊性を高める一つのキーポイントにしていく中には、公共交通やL R Tなどは切り離して、あくまで歩行者という視点から考えることでよろしいんですかね。L R T等々考えたときに、公共交通の中で、魅力的な庁舎があると、降りてみようかなと、それがましてやメルボルンのように、フリーで乗ったり降りたりできるようなら、非常に魅力的だと思うのですが、そこまではよろしいんですか。

○八木部長　できれば幅広く意見を頂ければ、我々としてはありがたいと思っています。

○南部委員　私はL R Tの実現は非常にいいなと思っています。バンクーバーも本当に住みやすいまちですが、L R Tが無く、バスです。

バスでめぐるしかありませんので、わかりにくい、動きにくいというところがあります。

公共交通は、人を動かしやすいということを身をもって体験したので、そういう意味では公共交通は結構大きいかなと思いました。

ソフトな部分で1点だけ申し上げます。人を活かすということが結局は組織を活

性化することに繋がるわけで、神戸市を生き生きしたまちにするためには、一人一人の市民の方に、どう役にたっていただくか、その人の能力をどう活かさせていただくかということだと思えます。

それがまさに神戸市としてのいわゆる将来の盛衰をわけるもの、浮沈をわけるものだろうと思うときに、こういう新しい施設ができるわけですから、そこに行けば自分がどう活かされるかなってことがわかるワンストップのキーステーションみたいな機能があると、例えば女性が一旦職場を離れて家庭に入られて育児に携わられた後に、社会に再度出て行こうかというときに起業しようという方法もあったり、あるいは就職しようという方法もあったり、いろんな方法があると思うんですけど、仮に起業しようとしたときに、ネットでもいろいろあるが、ここに来れば自分を活かせる方法を、例えば起業する場合は、法務局の手続きがあり、その前提として株式会社と有限会社どう違うんかとみたいなのも含めて、いろんな知識がここに来れば分かるよみたいなことがあると、おもしろいだろうなと思えます。

お年を召された方がリタイアされて、自分をもう1回活かしたいと、これから女性とリタイアされた方々をどう活かすかというのはまさに成長戦略の大きなキーワードになってきてますから、そういったワンストップでの活かす場所というところを提供できたら、おもしろいなと私は思います。

○岡田会長　野村委員にお聞きしたいんですが。

グランフロント大阪に人があれだけ集まっています。その背景、秘訣、理由といいましようか、そういうふうなものがあれば我々の参考になるのかなと思えますが、いかがでございましょうか

○野村委員　一つは駅前で立地がいいということがあると思う。あとは、今までターミナルというのは、オフィスがあって、商業施設、いわゆるショッピングセンターなりデパートがあり、あとは文化施設として例えば映画館のようなものがあるという、そういう構造だったと思うのですが、そういう仕組みがターミナルという概念がだん

だん崩れつつあるのかなと思います。単純に商業とオフィスつくってもなかなか今の時代はオフィスもすぐに埋まりにくいし、商業も一般の人たちが普通に物を買うとか単純に物を食べることで満足できにくくなってきている時代です。グランフロントの場合はナレッジキャピタルという、商業でもなく、オフィスでもなく、全く違う概念です。今までであれば遠隔地、離れたところに例えば関西でいうと学園都市であるとか、そういうところにあるものが都心にある、そういう今までと違うターミナルの概念ということが複合的に入っているということが、一つの要因かなと思うんです。

だからできるだけ今までのターミナルでない新しい概念の、商業でもそうだと思うんですけど、本当に普通に物を買う物を食べるということだけでは飽きたらなくなってきていると思うんです。

知的商品と言っていますが、知的なことに対してお金や時間を使う人たちがちょっとふえてきているかなってというのは日常的にいて実感するんです。

そういう観点でいうと、この資料を見て、この地区の課題があってそれに対する解決の方向性があるって、具体的なファンクションがでてきてると、これはこれで具体的なファンクションって極めて重要やと思うのですが、もう少しこの地区とかエリア全体の上位の概念とかコンセプトとか、ここを建替えた時にどんな所なのかっていうのが、何かあまりはっきりしないのと、ファンクションが並んでいるので比較的総花的なイメージに感じざるを得ないので、大きな上位の概念とかあるいは、これができることによって神戸市全体にどういう影響なり、効果を及ぼすかっていうようなことも含めて、もう少しコンセプトな部分が出てくるといいなって感じがしています。

今度、こういう場所になりますよということが、具体的なファンクションだけでなく、そのビジョンとかイメージとか絵が大事だと思うのですが、言葉としても、何かこういうエリアにするってことが、あったほうがいいかなってこの資料見て思いました。

○柏木委員　　セミパブリックとしての位置づけ、それからビジュアル化していくこと、動線を含めた検討という点についてはそうだろうなと思っています。

ファンクションを上下とか、強弱がないと見えづらくなってるかなと思ってまして、求められている機能を全て出し尽くしていくと最終的にはどこでも総花的になっていってしまうだろうと思っています。

神戸らしさの強みというものを引き出してくれるような、より強めてくれる機能が、この中であるのか、そもそも神戸市の強みって何なのかというところが上位でないこと、それを引き出すようなものがあってはじめてセミパブリックとしての意味合いというものが出てくるのかなと思います。

単に床面積だけを大きく、高層化していく発想は、私は余り持っていないというか、できればそうしてほしくない。高さはあのままがいいのではないか、景観的なことを考えれば、あのままの高さで、あのままの高さを維持した上でできることは何なのか、というふうな発想でやれたらいいかなと思いました。

例えば行政機能であそこに置かなければならないものと、逆に駅前に置いたほうがいいもの、分散させたほうがいいもの、回遊させるということはある意味、そういったことに繋がってくると思います。商業という点においても、すばらしい商店街もあるわけですから、そっちに全部まかせたらいいわけで、床面積を単に広げる、拡大させるという発想はちょっとないんじゃないかなと思っています。

神戸市の観光推進組織のあり方を再検討しようっていう委員会に出席しています。同じような委員会が全国でいろんなところで始まってまして、8カ所くらいに参加しています。

いろんな議論を伺っていて、神戸ってほかと大きく違うなと感じたことがあります。それはプレーヤーさんがもの凄く多いことなんです。

いろんな現場で活動している方の話を聞く機会が、7回くらいあり、いろいろ話を伺って、皆さんすごくいろいろな思いはあり、そして自分で既に動いていて、それぞ

れ商品を作っていて、ただそれをコーディネートする人がいないんだなというのが、この都市ならではだなというふうに感じまして、他都市だとそれをやる人すらいないので、コラボレーションを創発するような機能っていうのがありさえすれば、この観光推進組織もうまくいくだろうというのが最終的な結論でした。

ですから、マーケティングだとかそういった機能は当然持つけれども、もっと重要なのはコラボレーション機能だよっていうところに大体話が落ちついていったんです。

それを考えたときに、神戸らしさをより強めるものは何かっていったときに、やっぱりコラボレーションを創発するような場があったらいいのではないかと思います。

○長濱委員　確認ですけど、床面積が1号館ぐらい必要と言われておりますが、別に高層棟を建てようということではないですよ。可能性もありますけど、高層じゃなくてもいいわけです。

○八木部長　市長は、1号館と同程度の床面積ということでございまして、大体5万㎡程度ということでございます。ツインタワーということで申し上げているわけはございません。

○岡田会長　先ほど柏木委員のお話の中に、行政機能の分散がございましたが、品田委員はその辺、御専門でいらっしゃいますので、いかがでございましょうか。

○品田委員　行政機能の話というのは、多分夢の余り少ない話で、こういう話をすると、皆さん多分失望されるんじゃないかと思うんですが、ただ必要なものは必要でして、現に今2号館と3号館に入ってて仕事されてる部分のお仕事と、多分考えないといけないのは、今の中央区役所ですね。あそこがバスターミナルになるという話ですから、そうするといずれあの辺にある行政機能もまた移さないといけない。

そうすると、今にプラスになるわけで、そうすると単純に考えれば、今と同じ床面積だと溢れてしまうわけです。

その点はいろいろ考えなくていけないで、先ほどお話しにありましたけど、行政機

能もまた分散、地理的に長田とかに分散する必要がある。

それから仕事のあり方も I C T 等を活用すれば、多分中長期的にはどんどんもっとコンパクトにできるはずなので、その辺は考えていく必要があり、行政をどうあのビルに収めるかという問題はずっとついてまわるんですよ。

資料を見て最初ツインタワーをイメージしておりましたが、やっぱりツインタワーは圧迫感がありますね。

だからツインタワーは無理かなと、何かこう傾斜があって、こっちから行くと大したことはないけど、横まで行くと結構高いみたいなそういう建物とかあるんかなと思ったり、それからあと中右先生さっきおっしゃった、路地裏ってそうですよね。

だから 2 号館と 3 号館の間の斜めの道って多分、神戸市の方以外通らないですよ。

あそこを例えばちょっと人が通れるようなふうにすると、何か楽しいのかなと、さっき聞きながらちょっと思いました。

そうすると、多分行政機能は 3 号館のあたりに集約をして、あるいは 2 号館の高層部分に集約をして、2 号館の低層部分が多分そういうにぎわい施設になるとか、あるいは 3 号館の低層部分もにぎわい施設にして、上のほうにそういう行政を積むとかいうこともあると思うんですが、行政のほうでも最低限あそこに残してほしい行政機能と、分散できるものというのは少しわけていただくということと、多分地理的にそれをどう配置するかということは、ここでも話さないといけないと思うんですが、行政のほうでもちょっとお考えいただくことが必要なんじゃないかなって、夢のない話で申しわけないです。

○岡田会長　それでは夢のある話で南出委員、いかがでしょうか。

学生たちが集まる、若者が集まるというようなことを、これまで説いてこられましたし、神戸らしさといいたいでしょうか、今コーディネートいただいている部分もあるかと思うのですが、そういうような点でいかがでございましょうか。

○南出委員　昨日、一昨日と代官山に行って来ました。音楽プロデューサーの方と

打ち合わせで、代官山のツタヤの所へ初めて行ってきました。滅茶苦茶おしゃれやなと思ったのですが、その方曰く、地元の人たちこんなところ来ないからねみたいな感じと言われてたんです。おのぼりさんがおしゃれなところに行きたいという所で、たくさんの方が長時間おられるみたいな感じでしたが、クリエイティブな人というか、リーダーみたいな人って、ちょっと言い過ぎかもわかんないですけど、限られてるのかなと思うんです。

格好いいということを求めている人って、意外とまだまだいてないのかなと思います。格好いいバンドがいて、その真似をしたいとかというところがライブハウスに今すごいパワーとしてあるんです。

そしてまねをして、それを自分たちのオリジナルにかえて、神戸から出て行くというのが多いんですけども、例えばK I I T Oさんとかも、格好いいと思うんですけど、大学生とか余り知らないんですね。そこにまず行くことを作らないと、おもしろいことって起きないのかなって思います。ライブハウスは東京で有名な人を呼べば、行列ができて、あそこ何やってるんやろ、若い子めっちゃ並んでるけど、何してるんやろみたいなことを思っただけ。何かこうもっと若い10代の子とか20才の子とか、その子らが何を思うのかみたいなことは、視点というか、もうちょっと考えてあげたいなみたいなことは、思いました。

○岡田会長 K I I T Oの横のみなどの森では、結構夜遅くまでダンスなどをしていますが、恐らくそういうふうなものから、さっきお話がありましたコーディネート誰かがしていけば、より大きなものに発展していくのかなと常日頃から思っています。

それでは大谷委員におかれまして、N P O等で活動されておられますが、そういうような観点から御意見頂戴できればと思います。

○大谷委員 資料1に書かれている、求められる機能は総花的ではあるけれども、かなり出尽くしている気はします。

どういう市役所のイメージを、ソフト的な部分でも考えられるかなって思ったときに、いろんな世界の都市の中でも市役所の中に劇場があるっていうのは少ないと思います。劇場があると、当然人は集まります。しかもそれほど大きな規模の劇場でなくてもいいと思います。200、300ぐらいの規模の劇場で、もちろんそれがエンターテイメントをする劇場ではなくて、非常に先進的なことを上演するような劇場で、しかもステイタスがあるっていうふうなことだと、少なくともある一定の人たちは集まってくる。

例えば1000人規模の劇場でしたら、かなり仕掛けがないとお客さんは集まらない。そうではなくて、若い人たちを中心に新しい舞台芸術を上演するような場としての機能をもった市役所だと、ある意味世界的にも注目されるような市役所になると思う。また、同時に地域、市民たちが主体となって参加ができるような催しも、例えばコミュニティダンスとか、劇場の中で毎週第3金曜日は市民マルシェがあるとか、そういう市民が主体となって、そこを使えるような場としての劇場と、それから世界の先端に行くような舞台芸術を紹介するような劇場という二つの映像を持っている。そういう劇場が市役所の中にあるっていうのはとても魅力的かなと思います。

今、文化ホールがメンテナンスの時期に来ている。メンテナンスをするのか、建替えをするのかを考えるような時期にきているときに、大ホール、中ホールがあるが、その中ホール部分、あるいはもっと小規模なホールが市役所の中にあるっていうのは、一つのアイデアとしてはありかなというふうに思っています。

○岡田会長　1200人の規模で国際ホールがありますから、その住み分けっていうことも必要かと思います。

○石川委員　資料1にはいろいろ盛り込まれてはいますが、今、時間軸が昔とは違い、非常に流れている、変化が激しいと思います。それを考えたときに、いろんなものを固定化するのはどうなのかというふうにちょっと思っています。

これまでは建物と私たちの生活がそれぞれマッチはしていたと思います。その流れ

がどんどん、どんどん早くなっていると思いますし、これからもっと激しくなると思いますので、その意味ではフレキシビリティというか、そういったものがすごく重要になってくるのではないかと私は考えています。

ハードとソフトにわけたときに考えますと、ハードの部分に関しては、フレキシビリティで考えると、機能はあんまり固定化し過ぎるのはどうなのかというふうに考えています。先ほどの床面積の話にもありましたが、一つの機能、ここはこういう機能で使うよと決めてしまうと、そこが使われなければ空きになってしまう。そういったことを避けなければ有効活用はできないというふうに考えると、床面積をどういうふうに上げるのか、もちろん必要な行政機能入れないといけないということもあると思いますので、そこも考えた上でできるだけフレキシビリティが高くなるような使い方や高くなるような物を造ることも重要なのではないかと考えてます。

それからソフトの部分ですけど、先ほどからコラボレーションという話が出ておりました。それから人を役立たせる方法というのも出ておりました。それがすごく重用だと思っています。人と人が会う、直接会うという意味はやはり重要だと思います。今はネットが普及していて、買い物するのも人に会わなくても買えるという状況の中で、人と人が会うことで、自分を成長させられるとか、自分が大きく変われるとか、自分が役に立てるとか、そういったところがあると思います。

その意味では、それもちよっとフレキシビリティにかかわってくるのですが、例えばシニア、資料にもシニアの交流とか子育て交流とか書いてますが、そういった一つ限定された世代であったり、グループそういったところの人たちがただ単に交流するのではなくて、もっともっと違う世代の人、違う文化の人、違う業種の方、いろんな方と会う、そういう機会をつくれるような、そういう交流拠点になるようなスペースであるべきなのではないかと思っています。

先ほど学生の話がありましたけれども、学生って本当に小さなコミュニティで暮らしています。その中で突然就職活動が始まり、突然大きな大人と、すごく年齢の離れ

た人と会って、かなり戸惑っている、今までどんなに小さなコミュニティで暮らしてたのかをそこで思い知るような状況なんです。

その社会人としての、学生が社会人になるソフトランニングさせるためにも、いろんな人とコミュニケーションを取らせることは、私たち大学にいる立場でも、そういうのが重要ではないかと思っています。

その意味では、今神戸市さんがいろんな拠点をつくられてますが、できればそういうコラボレーションを生むような、いろんな方が集まって、神戸はいろんな方が集まっていろいろお話できるようなそういう場があるよってというのが一つの売りになるような、そのような拠点づくり、要は自由にそういう人たちが、意見交換ができるような場ってというのが重要だと思っています。

その意味では先ほどの、行政機能のところにも関わりますが、そこに入るような行政機能は、そういうコラボを支える、いろんな方のコラボを支えるような行政機能が入ることによって、それぞれが自由に、闊達にいろんな意見を交換し合う中で、行政はいろんなさまざまなサポートをしていく、そういうふうな関係性が生まれればいいと思っています。

いろいろな人々、市民の方がセミオープンな行政機能の方々と一緒に何かできる、コラボができるというようなところの場所づくり、空間づくりが重要なのではないかと思います。

○岡田会長　先日、テレビで神戸を特集した放送があり、先週のテーマがなぜ神戸はハイカラなのかというテーマでした。150年前に港を開港し、兵庫の津から神戸のほうにメインが移行したが居留地というのは後からできたもの。神戸は雑居地区が圧倒的に多かった。北野に異人館が多くあるが、北野のエリアに日本人と外国人が雑居していた。だから、日ごろから国際化があって、日本人が西洋化されていった、それがハイカラのもともとの理由なんだと言われてるのを見ました。今、石川委員のお話をお聞きしながら、いろんな異なった文化、異なった業種、あるいは異なった世代

の方々が集まれるところにすれば、150年前から我々が持っているハイカラというのを、これから継続していけるのではないか。そういうようなところが神戸の強みなんだということをお聞きしながら実感いたしました。

○南部委員 働く側としての庁舎のあり方みたいなのをふと考えました。仕事をされる方々が、やる気になって仕事をしていただきやすい場所でないといけないと思いますし、ハイカラやな神戸の市庁舎はというふうに外から来られた方に思われる場所であっていただきたいという気もいたします。

1号館と新しい庁舎に入られる方々が行き来し易い、機能的にもやり易い形の庁舎であってほしいなど、働かれる方々のことも考えてほしいと思いました。

○長濱委員 市長が1号館と同じ程度の床面積と言ったので、六本木ヒルズを作るのかと皆さん思ったと思うんです。先ほど代官山のティーサイトの話も出てましたが、六本木ヒルズのあの格好は東京の格好良さだと思うんです。それに地元が少ないエリアの格好良さからだと思うんです。

神戸を考えるとやっぱり東京と180度違う格好良さが恐らくあって、それが神戸の地元の人たちの文化であるとかいうことが格好いいと思うんです。

神戸の人たちを見てると格好いいんですよ。わがまち意識が高くて、美学があって、センスがある。多分その人たちが集まって来れる場所をつくれるかどうか、1番重要だと思っています。駅前には来街者の窓口で、この場所は居留地やKITOへの中間地点です。ここに、ほかのエリアの神戸市の人たちが日常的に集まって来れる場所をつくれるかどうか1番大事なんだろうと思っています。それを見に他の人たちが、その格好良さを見に来る。神戸の格好良さみたいなのがこの場所でどう作れるか、そのときにハード的にもソフト的にも、「セミ」がキーワードかなと思っています。民間サービスと公共サービスの間みたいな意味のセミ、人と電車の間のLRTとか、この間のセミをここで作れば、神戸の人たちが集まって来やすい場所になる。六本木ヒルズ状態にすると、さっきも話出てましたが、神戸の人たちはみんな来なくなり

ます。

神戸の人たちがほんまに日常的に来られる場所みたいな、東遊園地の社会実験なんて、ある意味それは僕らが微笑ましく思えます。神戸の市民の人たちがやって、神戸の市民の人たちが集まってるあの情景が格好いいなと思うんです。

いわゆる東京ナイズされた商業展開をしているわけではなくて、神戸の格好良さみたいなのをやってるからだと思うんです。

この場所の地理的とか社会的とか経済的ポジショニングは、繋ぐみたいな、コネクトする場所をどうつくっていけるかという役割の場所なんだろうと思いました。

○中右委員　六本木ヒルズは出来て10年経っているが多くの人が集まっている。年月が経つと陳腐化していくので、季節ごとにイベントを打ったり、地域の人を巻き込んで自治会を作ったりして地域に根差しながら運営している。

東京で神戸会という会を主催しており、神戸出身者に集まってもらうイベントをやっているが、神戸の格好いい文化って何となくはわかるが、神戸の人が集まってくる共通項がすごく見えにくい。東京で神戸の人を集めて話を聞くと、神戸の良さが何か明確に分からない人が結構多い。神戸好き、地元好き、神戸愛がありますってみんな言っているが、だからといって、初めて神戸に行く友達にどこ行けばいいかを聞かれても、異人館あたりしか伝えることができなくて、いつもちょっと困ってしまう。

六本木ヒルズでは、その地域をマネジメントする人がいて、イベントを打ったり、地域に働きかけをしている。そういうやり方は今後の市役所で何か空間をつくったときに活かせると思います。

○福岡委員　昨日、東京都内の建替えが終わった市役所で会議をしてました。今の新しい市役所だと低層階が市民の共同スペースであるとか、交流スペースやマルシェが出来てたりとかがほとんどなんです。

ここでは何をやってるかなと思って、見てみると、やっぱり自治会さんの活動のパ

ネルが貼ってあったりとかで、余り代わり映えはしなくて、そんなに市民の活動は表出している感じはなかったです。

神戸市の魅力を伝えるときに、私、住みやすい都市という研究をやっていて、二つ違う視点があるということがわかりました。

それは、都市間ランキングであるとか、住みやすい都市のランキングというものは世界でたくさん発表されていますが、それは主に国際的な都市のプロモーションであるとか、企業の誘致をしたりとか、それから教育がどれだけ充実しているかということなどを謳っていて、神戸というイメージを世界のいろんな都市や日本中に売り出すようなところが、少し弱いと思います。クリエイターであるとか、それから大学や第一線の研究者や企業、それから神戸を代表するようなイメージを外に向けて発信することで、たくさんの人に神戸に集まってもらえるような拠点のような、イメージというかコンセプトが多分一つ座標軸として必要だと思います。もう一つは、市民がやはり集まってきて、そこで自己実現や自己表現をする場が必要なのかなと思っています。

東遊園地で社会実験をしていて気がついたことは、芝生が出来た時に、降りてくる人がどういう人かということ、子供とタワーマンションに住んでいる近隣のお母さんと家族連れ、あと時々神戸市役所の人が降りてきて昼休みサッカーするとか、それぐらいなんです。

居留地で働いている人や周辺のビジネスマンは、ほとんど素通りして来ないんです。それはどうしてかということがもちろん課題だと思うんですけども、やはりそういう市民が自分たちが何かやっている活動、例えばそこで音楽を演奏するとか、それから踊りをするとか。みなとのもり公園で高校生が夜によさこいをやっているけれども、余り誰も見てない、ちょっとかわいそうな感じがするんです。彼らがもしもう少し都心部で自分たちがやってることを見てもらえたらいいなと思うし、自己実現をする場所というものが新しい神戸の文化になるのかな、それは市民から生まれる、そこに住んでる人から出てくる文化なのかなと思うんです。

より神戸の魅力を伝えるようなコンセプトと、それからそこで市民が何かをつくりあげるようなこと、それをどういうふうにまじり合って、どういうふうに出会えるかとか、研究者と市民がどうであるとか、大学とそれから企業はどうであるとか、みたいなことは、御専門の方もおられると思いますし、まざりぐあいみたいなものはいろいろデザインできると思うんです。そこに、行政が少し場をつくっていくような役割を担う必要があるのかなと思いました。

それをすごく感じたのが、メルボルンに行ったときに、アンバサダー制度というのがあって、市民が市の歴史や、それから市の観光大使として応募するんです。そうすると、市役所でそういうコミュニケーション課とかプロモーション課とかがあって、市民を採用して、まちに行くとき赤い帽子をかぶったボランティアの方たちが、1番目抜きどおりとか、観光スポットに立っていて、ちょっと地図を見たりすると、すぐ寄ってきて、いろいろガイドをしてくれる。彼らがいる拠点みたいなのが、まちの中に点在している。それが何を意味しているかということ、ただボランティアがいいという話ではなくて、そういった市民がふえればふえるほど、彼らは満足感や幸福度が上がり、コミュニティの力も上がり、それは市全体にとってもすごくいいことだから、市民の力を上げるようないろんな参加の仕方、形を市は全面的にバックアップをしている。彼らが住みつづけたいと思うためには、そこでの生活体験や楽しさみたいなものも大事なのかなと思いました。

市庁舎を考えるときも、やはりその二つの視点、外に向けての話と、それから内側から何かにじみ出してくるような機能があるのかなと思いました。

○山下委員　神戸市役所の立地を考えたときに、神戸市役所自体が集客施設になってしまうというのは、これはちょっと違うと思っていて、にぎわいを創出するのもまた神戸市民なんです。だから、神戸市が設えるのは、その発表する場所だけなんです。

今度の新市庁舎の建てかえということを考えると、1番大事なものは、通過した人たちが一体何を見て、何を感じるかということがすごく大事で。

あともう一つどうしてもこの場で言いたかったことがあって、神戸市庁舎地下1階の横には地下通路というのがあって、あれはもともと三ノ宮の駐車場の一部を通路として、供用している関係上、お店にするということができないエリアなんです。だから、元町と三ノ宮をつないでいる横の道がありますけど、あの道沿いに店ができないのは、そのせいなんです。本当に道としか使うことができないこの殺風景な場所を、いかにして使っていくかということで、実は私いろいろ提言していて、その一つが三ノ宮プラッツなんですけど。

だから、本当地下空間で、路上ライブどんどんやったらいいということを今提言しているんですけど、そういうふうないわゆる人の通る道のにぎわいづくりというのも、大事な視点じゃないかなと思ってます。

そういった人の流れというものを考えときに、じゃあ市役所の建物の中にどういう機能が必要なのか、どういうアメニティがいるのか、あるいはどういう存在の人がいるのか、それもまた含めて考えていく必要があるのではないかなと思います。

少なくとも市役所の中にコンシェルジュが1人いたほうがいいなどは、常々思っていて、神戸市のまちをいろいろ知っている人が市役所の中に1人いたら、いわゆる国内旅行の人も海外旅行の人も結局そこに集まってくる、あとは、そのまわりのにぎわいづくりをどう創出していくかということを考えていけばいいと思います。

補足になりますが、市長が今考えているのは本庁舎、東遊園地を含めて、エリアの全体像で、えきまち空間の基本計画の策定、これが第一だと、まずすぐに決めないといけない。その次の矢として、庁舎の建てかえ、あるいは三ノ宮の再開発というものが順番に進んでいくというような段取りになっておりますので、そういった意味では今皆さんに議論していただいていることってというのは、このあとどんどん効いてくると思います。

○南部委員　人間のしあわせって一体何やだろうと、思いつづけ考えつづけた中で、最終的には誰かの役に立つことが1番の幸せということに行き着いたわけです。

市民の方がいろんな形で、職業という形でも何でもいいんですけど活かさせていただくって、まさに、神戸市の方々をしあわせにする方法とイコールだと私は考えていると思うんです。

ここで、どういうふうに活かさせていただくか、また、ワンストップで発信できるような場所、拠点になるといいなと思います。

○柏木委員　発信する方法の一つの海外事例を思い出したので、御紹介したいと思います。先ほど劇場のある市役所っていう話があって、これすてきだなと思いました。市役所ではないのですが、パリのギャラリーラファイエットというデパートの最上階が基本的にフレキシビリティで、フリースペースになっていて、シャガールのステンドグラスがおいてあり、そしてカフェが飲めるところですが、14時とか16時とかの時間帯に、1日に2回だけファッションショーを開催しています。

そのようなスペースがありまして、デパートで売るようなブランドのメーカーさんがやってくれるわけなんですけど、そのときに地元の専門学校生だとか、ヘアーとか、ああいった子たちが協力をしてやってたんです。そこはパリでファッションで、そして無料で見られて、時間も楽しめるというような場所だったんで、そういった劇場ではないけれど、フリーなスペースで、でもファッションショーなどは出来るようなものもあっていいのかなと考えました。

○長濱委員　確かストックホルムの市庁舎もノーベル賞の授賞式に多分使うんですかね。日常とハレの祝祭性みたいな入れかえがすごくいいなと思っていて、日常側に空間があるということなんだと思うんです。

さっき、中右委員が神戸を案内するときに、友達に神戸のどこがいいよっていうのがなかなかないって話で、僕はそれでいいと思っています。

楽しいまちと、気持ちのいいまちの違いがそこにあって、楽しいまちは色々と、ここに行ったらいいよとかあるのですが、気持ちのいいまちは、とりたててそんなに行ったらいいみたいな観光スポットがあるわけではなくて、気持ちがいいまちだから行

きたくなるし、住みたくなると思う。

神戸も恐らくそういうまちなので、それがあるので市役所が観光スポットになることよりも、気持ちのいい、神戸の気持ちよさみたいなのがどうプレゼンテーションできるかという場所にやっぱりなるべきで、今さら観光スポットをここにつくっても、あんまり意味がないと思っています。実際自分も旅行や出張でも行きますけど、このまちいいなって思うのはやっぱり気持ちのいいまちです。楽しいまちは楽しいから、そこから当然楽しいんですけど、その違うもう1個があるっていうこと、まちの魅力としてどこ行ったらいいよっていうことがないまちでも全然僕はいいかんと思っています。

○岡田会長　それでは1回、2回と続けてかなりの御意見を頂戴いたしました。

とりわけ1回目、2回目でこの建物を造るとするならば、神戸市民が集えて、楽しくやっていけば、他から来られた方にも魅力のある場所になるのではないかなとご意見がありました。

今回新たに出てまいりましたのが、どういうふうな形で、それを表現していくのか、まずソフトな面において南部委員おっしゃったような言葉であそこに行けば自分を活かせる場所、あるいは人に役立てるような場所、そうすれば生きがいを感じるのではないかとご意見がありました。

柏木委員等から、コラボレーションしており、さまざまな要素はあるが、それをコーディネートする方々、コーディネーションを必要とする場所としても機能できるのではないかとご意見がありました。

さらに、品田委員からも行政機能についての課題の御指摘もありましたので、これはいずれはまた、神戸市の方々が具体的にお考えいただくことになると思っております。

それと、今日新しい概念として出てまいりましたが、セミパブリックというお話がございまして、そういうふうなことも、新しい観点として出てきています。

第4回目におきましては、これまでに頂いたご意見の取りまとめを行います。

その取りまとめ方ですが、長濱委員、福岡委員からもお話がありましたように、もう少しビジョンをわかりやすく書いてはどうか、それからポンチ絵等を使ってビジュアルな形で、その中に我々の意見が表現できたらと思っています。

それと1回目、2回目、3回目と議論を重ねるにつれまして、これまで見えなかった事柄、例えば課題とはこういうのがありますよ、でも実際こういうようなことやってますよ、それをどういうふうに調整をしていけば、より神戸市の活性化につながるのかっていうような御意見もございました。多くの貴重な御意見を頂戴いたしましたので、それらを取りまとめて第4回懇話会で議論できたらなと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

○事務局 岡田会長、どうもありがとうございました。

皆様からたくさんの御意見もいただきました。

本当にありがとうございました。

先ほど岡田会長からもありましたように、次回今回のまとめを事務局のほうでやらせていただいて、皆様のほうに見ていただいて、御議論いただくということにさせていただきます。

本日は、皆様、どうもありがとうございました。

閉会 午後12時00分